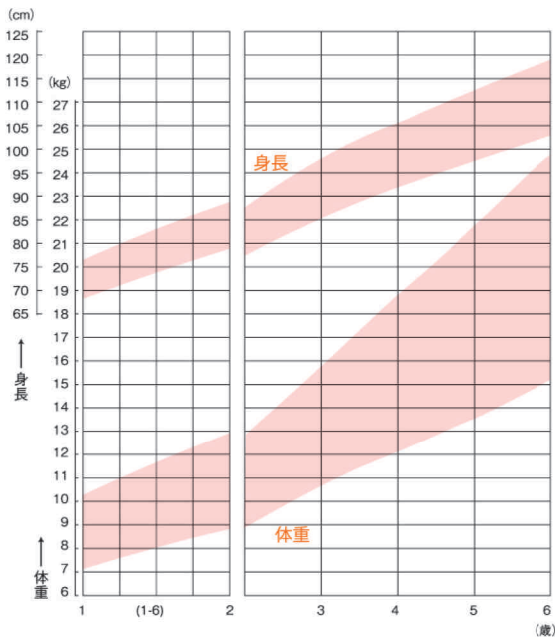


乳児身体発育曲線：女兒

(平成22年調査)

お子さんの体重や身長をこのグラフに記入しましょう。



出産予定日を0日とした場合の月数

身長と体重のグラフ：帯の中には、各月・年齢の94パーセントの子どもの値が入ります。乳幼児の発育は個人差が大きいですが、このグラフを一応の目安としてください。

出典：厚生労働省平成22年乳幼児身体発育調査報告

予定よりも早く小さく生まれて、NICUにお世話になり、退院後は大きな病気もなくもうすぐ3歳になります。

～体重増加不良～

体格の評価は前述のとおり修正月齢で行われます。(P.33「修正月齢」参照。)本冊子にも掲載されている乳幼児身体発育曲線で予定日を0日とした修正月齢で体重をつけていきましょう。もし体重があまり増加せず発育曲線からそれていくようなら、まずは母乳やミルク、離乳食などの摂取不足が考えられます。一度与える量を増やしてみましょう。

与えても食べて(飲んで)くれない場合や摂取量を増やしても体重が増加しない場合は、「おなかのガスが張って飲むのがしんどい」、「筋緊張が弱くうまく飲めない」、「ミルクアレルギーで栄養を吸収できない」、などからだに原因がある場合もあります。主治医の先生と相談しましょう。



我が子を信じ、明るい未来を信じてください。
心より応援しています。

～SGA 性低身長症について～

在胎週数ごとに決められている出生体重および身長の基準値に比べて小さく生まれることを、「SGA」と言います。

SGA のお子さんは、多くが生後に標準の体格に追いつきます（キャッチアップ）が、早産 SGA のお子さんの場合はキャッチアップ率が低いと言われています。

3 歳になっても身長が標準範囲より下回る場合「SGA 性低身長症」と言われ、決められた条件を満たせば成長ホルモン治療を受けることができます。成長ホルモンは身長を伸ばすだけでなく、体組成の改善や頭囲の成長、知能指数改善などさまざまな効果が報告されています。



早く会いにきてくれたリトルベビーとの時間を大切に、成長を楽しんでください。



第4章 知っておきたいこと

小さく早く生まれた赤ちゃんに起こりやすいこと

小さく早く生まれた赤ちゃんたちは、さまざまなハードルを乗り越えながら大きく育っていきます。赤ちゃんによって経過は違うため、ここで説明していることが必ずしも起こるわけではありませんが、赤ちゃんのことを考えて不安や心配になってしまうこともあると思います。NICU スタッフはできるだけのことをして、赤ちゃんとママ、パパを応援しています。大切な赤ちゃんのことを、医師や看護師と一緒に話すことで、ママとパパの不安や心配が軽くなることもありますので、気になることは何でも聞いてみることをお勧めします。

脳

血管にもろい部分があったり、血流調整が未熟なことがあります。

心臓

胎児期には開いている動脈管がなかなか閉鎖しないことがあります。

血液

黄疸が進行しやすいったり、貧血になることがあります。

感染

お母さんから十分に抗体をもらっていないため、感染に弱い傾向があります。

肺

肺が膨らみにくく、呼吸が速かったり、酸素や呼吸器が必要になることがあります。

体温

体温調節が未熟で低体温になりやすいです。



産まれてから一緒に暮らせるまで100日以上かかったけど、僕にとって自慢の元氣いっぱいのおてんばな妹です。

1. 呼吸窮迫症候群

肺は、肺胞という小さな風船のような構造物で成り立っています。肺胞はしぼまないように内側を粘液（肺サーファクタントといいます）で覆われています。早産児、特に 35 週より早く生まれた赤ちゃんではこの粘液がまだ十分産生されないため、肺胞がうまく膨らまず、呼吸がしんどくなることがあります。このような病態を新生児呼吸窮迫症候群といい、肺サーファクタントを補充する治療をすることがあります。妊娠中のお母さんにステロイドの注射をすることで赤ちゃんのサーファクタントの産生を促すこともあります。

2. 未熟児無呼吸発作

早産の赤ちゃんたちは、呼吸をときどき休んでしまうことがあります。直ぐに呼吸が再開できればいいのですが、脳の呼吸中枢が未熟であることや気道が柔らかいため呼吸を再開するのが難しい場合には、体中の酸素濃度低下や心拍数低下が起こります。この状態を未熟児無呼吸発作と呼びます。治療は人工呼吸器で呼吸を助けてあげたり、呼吸中枢を刺激する薬を投与したりします。赤ちゃんの成熟に伴い軽快します。その時期には個人差がありますが、出産予定日近くになると消失することがほとんどです。



9年前に小さく産まれました。僕は元気で毎日楽しく暮らしています。野球チームで頑張っています。

3. 慢性肺疾患

赤ちゃんの呼吸する力が未熟な場合には、高い濃度の酸素投与や人工呼吸が必要です。しかし、未熟な肺の組織は長期の高濃度酸素や人工呼吸によってダメージを受けやすくもあります。体が大きくなるにつれて肺の組織も増えるので、ダメージを受けた肺組織は修復しやすくなりますが、ダメージが強い場合や修復力が弱い場合には、酸素投与や人工呼吸が長期に必要なことがあります。出産予定日頃までには、酸素投与や人工呼吸は必要なくなるのがほとんどですが、一部の赤ちゃんは予定日を超えて酸素投与や人工呼吸が必要になることもあります。

4. 未熟児網膜症

早産児では、眼の網膜血管の発達が未熟な状態で生まれます。生後に網膜血管が順調に発達する場合はよいのですが、異常な新生血管が発達してしまうことがあります。この異常な新生血管の発達が目立つ状態を未熟児網膜症と呼びます。治療としては、網膜レーザー治療を行うのが一般的です。多くの赤ちゃんでは、予定日頃には軽快してきますが、ごく一部の赤ちゃんでは異常な新生血管を押さえられず網膜剥離に進行することがあります。網膜剥離に進行した場合には失明することがあり、硝子体手術という特別な手術が必要になることがあります。



全てのリトルベビーちゃんが無事健やかに育ってくれますように！

5. 未熟児動脈管開存症

子宮内では赤ちゃんは肺で呼吸をしていないことから、心臓から肺へ向かうほとんどの血液は、動脈管という血管を経由して大動脈から全身へ流れています。赤ちゃんが生まれて肺で呼吸を開始し、心臓から肺への血流が増えると、この動脈管は必要なくなり自然に閉鎖します。しかし、早産児では自然に閉じない場合があり、全身に流れるべき血液が肺へ流れてしまいます。血流のバランスが崩れることで、心臓や肺への負担が大きくなり、状態が悪化することがあります。治療としては、動脈管を閉鎖させる薬を投与するのが一般的です。薬の効果がないときには、手術で動脈管を閉じる場合もあります。

6. 壊死性腸炎

腸管組織への血流減少と細菌感染症が重なることで腸管組織が壊死し、場合によっては腸に穴が空いてしまう病気です。発症すると命に関わることもあるので注意が必要です。早産児にとって母乳には壊死性腸炎の発症を減らす効果があると言われています。発症した場合は、腸を休ませるために栄養の注入を中止し、点滴による静脈栄養、抗生剤治療を行います。腸に穴が空いてしまった場合には手術が必要になることもあります。



子供の生命力は強いです！！
きっと元気に育つと信じてください。